月経困難症に大柴胡湯単独で奏効した2例

堀場 裕子 吉野 鉄大 渡辺 賢治

慶應義塾大学医学部漢方医学センター, 東京, 〒160-8582 新宿区信濃町35

Two Cases with Dysmenorrhea Successfully Treated with Daisaikoto Alone

Yuko HORIBA Tetsuhiro YOSHINO Kenji WATANABE

Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine, 35 Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan

Abstract

Physicians usually prescribe specific formulae which are classified as treating blood stasis for dysmenorrhea in Japanese Kampo medicine. Daisaikoto is not classified as the category and rarely used to treat dysmenorrhea. Here, we report 2 cases of dysmenorrhea that were successfully treated with daisaikoto. In case 1, the patient was a 19-year-old student. Menstrual pain worsened and accompanied premenstrual headache and vomiting, disturbing her to go college since she started her college life. Commercial non-steroidal anti-inflammatory drugs were not effective. Her Kampo abdominal findings included abdominal strength excessive, *fukuman*, *kyokyokuman* and tenderness in the peri-umbilical region. We diagnosed her as “excessive pattern”, “heat pattern”, “qi stasis”, and “blood stasis”. We prescribed extract of daisaikoto 7.5 g per day. Four weeks later, she reported improvement of premenstrual headache and vomiting. Twenty weeks later, she needed no more analgesics at menstrual period. In case 2, the patient was a 35-year-old mother. After entrance examinations of her son and moving, her menstrual pain, headache and irritability worsened. Her Kampo abdominal findings included abdominal strength slightly excessive, *fukuman*, *kyokyokuman*, *shinka hiko*, and tenderness in the peri-umbilical region. We diagnosed her as the same as case 1 and prescribed the same. Eight weeks later, she reported disappearance of headache and irritability. Twenty weeks later, menstrual pain improved.

Key words : dysmenorrhea, qi stasis, blood stasis, daisaikoto

要旨

月経困難症の漢方治療では、駆瘀血剤が処方されることが多く、大柴胡湯が第一選択になることは少ない。今回、月経困難症に大柴胡湯単独で奏効した2例を報告する。症例1は19歳、大学入学後から月経痛が悪化し、市販の鎮痛剤が無効であり、頭痛や嘔吐のため講義に出席できないこともあった。腹力充実、腹部膨満、胸脇苦満、左右臍傍の圧痛を認め、実証、熱証、気うつ証・瘀血証とした。大柴胡湯エキス内服4週後には月経前の頭痛や嘔気が軽減し、20週後には月経痛に対する鎮痛剤が不要となった。症例2は35歳、息子の進学問題と転居を契機に月経痛や頭痛、いらいらが出現した。腹力やや充実、腹部膨満、胸脇苦満、心下痞硬、左右臍傍の圧痛を認め、実証、熱証、気うつ証・瘀血証とした。大柴胡湯エキス内服8週後には頭痛やイライラが消失し、20週後には月経痛は気にならなくなった。2例とも大柴胡湯にて「気うつ」が消失し、月経痛が改善した。

キーワード : 月経困難症、気うつ証、瘀血証、大柴胡湯

緒言

『皇漢医学』で湯本求真が「月経血は即ち瘀血なり」と述べているように¹⁾、月経困難症の漢方治療には駆瘀血剤が処方されることが多い。一方、大柴胡湯には駆瘀血作用のある大黃が含まれているが、月経困難症の第一選択薬として処方されることは少ない。月経異常における気剤単独での治療による症例報告として、われわれは気うつが原因と考えられ

る続発性無月経に対して烏薬順気散で治療した症例を報告した²⁾。また木村は半夏厚朴湯で月経不順が改善した症例を報告している³⁾。しかしながら検索範囲内では大柴胡湯単独による月経困難症の治療報告は見当たらない。今回、われわれは月経困難症に対して瘀血の存在を認めながら駆瘀血剤を併用せず、大柴胡湯エキス製剤単独で治療した2例を経験したので報告する。

図1 症例1の治療経過

症例1：19歳 大学生

主 訴：月経痛

既往歴・家族歴：父が高血圧症

現病歴：以前から月経痛に悩まされていたが、X-1年の大学入学後より悪化し、市販の鎮痛剤を内服しても症状の改善が得られなくなった。さらに月経開始日の1週間前からは気分が落ち込み、1日に数回の頭痛と嘔気が出現し、時に嘔吐することもあった。月経前から月経期間中にかけて頭痛、嘔気、月経痛のため講義に出席できなくなり、2、3日間は自宅で寝込むこともあった。月経前後は気分が落ち込み、やる気が出なくなった。X年、漢方治療を希望し当院婦人科へ紹介受診となった。他の自覚症状として、いらいらする、寝付きが悪い、疲れやすい、おなかが張る、ガスがよく出ると訴えた。

生活歴：排便は3日に1行で硬い。排尿は1日に5～6回。月経は30～40日周期で不順、月経痛は強く、経血量は多い。

初診時身体所見：身長148 cm、体重68 kg。体格は肥満で、顔面は紅潮し軽度発汗していた。

漢方医学的所見：脈候は浮緊。舌候は舌色紅で黄苔、舌下静脈怒張あり。腹候は腹力充実、腹部膨満、左右胸脇苦満、左右臍傍の圧痛あり。

漢方学的診断：実証，熱証，気うつ証，瘀血証。

治療経過：初診時に大柴胡湯エキス7.5 g/日を連日内服として処方した。2週後に月経痛は不変であったが、排便が1日1行になったため同処方を継続した。4週後、月経前の頭痛と嘔気が軽度軽減し、8週後にはさらに軽減し、少しやる気が出てきた。

12週後、月経前の頭痛と気分の落ち込みが消失し、腹部膨満や易疲労もほとんど気にならなくなった。20週後には月経痛に対する鎮痛剤が不要となった（図1）。

症例2：35歳 主婦

主 訴：月経痛

既往歴・家族歴：特記事項なし

現病歴：Y-5年からY-2年まで月経困難症に対して桂枝茯苓丸・桃核承気湯を内服していたが、症状が改善せず自己中断した。Y年、転居と子供の進学問題を契機に月経前の頭痛、いらいらと月経痛が悪化したため、再度漢方治療を希望し当院漢方医学センターを受診した。他の自覚所見として、汗がよく出る、疲れやすい、食後におなかが張ると訴えた。

生活歴：排便は2日に1行で硬い。排尿は1日に4～5回。月経は28日周期で整、月経痛は強く、経血量は多い。

初診時身体所見：身長151 cm、体重59 kg。体格はやや肥満、顔面は軽度紅潮。

漢方医学的所見：脈候はやや沈緊。舌候は舌色紅で厚白苔、舌下静脈怒張あり。腹候は腹力やや充実、腹部膨満、心下痞硬、左右胸脇苦満、左右臍傍の圧痛あり。

漢方学的診断：実証，熱証，気うつ証，瘀血証。

治療経過：初診時に大柴胡湯エキス7.5 g/日を連日内服として処方した。2週後に月経前の頭痛が軽減した。8週後には月経痛が軽減し、頭痛といらいらが消失し、排便が1日1行になった。食後の腹部

図2 症例2の治療経過

膨満は消失した。20週後には月経痛もほとんど気にならなくなり、疲れにくくなった（図2）。

考察

月経困難症とは、月経時、あるいはその直前から強い下腹痛や腰痛（月経痛）が始まり、月経期間中に日常生活を営むことが困難な状態をいう⁴⁾。今回の2症例の月経痛の原因は、婦人科診察で骨盤内臓器の器質的な疾患は指摘されていなかった。また問診より月経前から認めていた頭重やいらいらは、月経開始後も症状が軽快しなかったため、2症例とも月経前症候群は否定的であった。

月経困難症の漢方治療では婦人科三大漢方処方とされる当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸や、桃核承気湯、温経湯などの駆瘀血作用を治療の主体とした漢方製剤が用いられることが多い。これは湯本求真が『皇漢医学』の中で、月経血は瘀血である¹⁾と指摘しているように、月経の異常には「瘀血」の存在が大きく関与しているためと考えられる。今回治療に用いた大柴胡湯は『傷寒論』太陽病中篇に「（前略）嘔止まず、心下急、鬱々微煩の者は、未だ解せずとなすなり、大柴胡湯を與えて、之を下せば則ち愈ゆ。」と⁵⁾記載されている処方である。『漢方診療医典』には「実証で腹満が強く便秘の傾向にある者に用いる」とあり⁶⁾、適応病名は高血圧症、肝機能障害、高脂血症、悪心嘔吐、胆石症、糖尿病などとされている⁷⁾。大柴胡湯は駆瘀血作用のある大黃を含んでいるが、われわれの検索範囲内では大柴胡湯単独による月経困難症の治療報告を見つけることはできず、通常は月経困難症の第一選択薬とな

ることはないと考えられる。

湯本は『皇漢医学』の中で瘀血に対する先人の治療例について、治療の即効性や治癒力を向上させるために腹証に応じて大柴胡湯や小柴胡湯などの柴胡剤と併用をするべきと解説している¹⁾。これは湯本が「瘀血」の改善には駆瘀血剤だけでなく気剤による「気」の異常の改善も重要であるとしていたためと考えられる。後山⁸⁾も、月経困難症の漢方医学的解釈として、「瘀血」以外にも、「気滯」「気逆」などの関与があることに触れている。さらに、気の異常の慢性化は「瘀血」を形成し、現代社会での日常生活における精神的ストレスも「瘀血」を助長するとして、月経における順気の大切さを主張している。「気」の重要性は、現代女性の月経痛に関する調査からも推察できる。16歳から50歳未満の女性を対象にした1,906人中で、約1/4以上の女性が強い月経痛を認めており、年齢別にみると若年女性の方が月経痛の程度が強かった⁹⁾¹⁰⁾。若年者では月経への不安や緊張などの心理的要因が大きい^{11)~13)}ため、若年女性の方が月経痛の程度が強くなると考えられるからである。今回の2症例も日常生活のストレスが大きく、漢方医学的な診察から瘀血証とともに頭痛、いらいら、腹部膨満などの気うつ証が強く見られた。そのため、いずれの症例の月経痛にも「瘀血」と「気うつ」が重要な要因になっていることが推察できた。

月経痛の病態分類には気と血の鬱滞による「気鬱血瘀」、月経時の大量出血による「気血虚弱」、腎精虚による「肝腎虚損」、そして寒と湿による「寒凝

胞中」が挙げられている¹⁴⁾。その中でも「気鬱血瘀」の病態の割合は比較的高いとされている。月経痛の原因である子宮筋腫や子宮内膜症、その特徴的な症状である過多月経、暗赤色または凝血塊を伴う経血など、「瘀血」の存在を強く認める症例以外に、婦人科診察で異常が認められない原発性や、月経前症候群のように精神神経症状が強い月経痛などの症例の大半は、今回の2症例を含めて「気鬱血瘀」タイプであることが多いと考えられる。「気鬱血瘀」の病態は気の流れが滞ると、気血が停滞し痛みが生じるとされ、血瘀とは「血が滞った状態」であり、その状態が続くと、生理的な血がその働きを失い「瘀血」となると考えられている。「気鬱血瘀」の具体的な症状としては月経の始まる直前の腹痛、腰痛、頭痛、乳房の張り、イライラなどの精神症状が挙げられる。治療原則は「理気活血」とされ、加味逍遙散や桂枝茯苓丸などが挙げられている。大柴胡湯の構成生薬で見ると、理気薬として柴胡と枳実、駆瘀血薬として大黄が配剤されているため、気がめぐり、便通がよくなり、慢性的な「瘀血」が改善するものと考えられる。

気と血の関係について、楊士瀛の『仁斎直指方』（1264）は「気者血之帥」「氣行則血行、氣止即血止、気温則血滑、気寒血凝」と記載している¹⁵⁾。気の状態が血へ影響を及ぼすことについて指摘しているが、「気うつ」「瘀血」からなる月経困難症に対して「気うつ」を優先して治療するのか、あるいは「気うつ」「瘀血」を同時に治療するべきなのかはその症例毎に異なるといえる。今回の2症例では、初診時の処方選択時に駆瘀血剤の併用も鑑別に挙げられたが、気うつ証が強かったことと、腹証上、胸脇苦満が顕著であったため、大柴胡湯単独投与で経過を観察することにした。また2症例とも基本的な漢方診察での治療のみとして、特別な診療形態や精神神経科受診、心理療法などは行っていない。2症例とも約5ヵ月間の大柴胡湯の内服で月経痛はほとんど消失し、月経痛の改善の他に、便通の改善や月経前後のいらいらや抑うつ気分の消失などもえられた。以上から、大柴胡湯単独でも「気うつ」「瘀血」からなる月経困難症に対して有効であると考えられる。

結語

今回の2症例により「気うつ」が強い月経異常に

は駆瘀血剤の併用がなくても、大柴胡湯で軽快する一群の患者が存在することが示唆される。

付記 使用した大柴胡湯エキス製剤は株式会社ツムラを用いた。本報告の概要は2013年6月1日、第64回日本東洋医学会学術総会で発表した。

本論文に関連し、開示すべき利益相反（COI）状態にある企業・組織や団体

奨学（奨励）寄付などの総額：株式会社ツムラ

文献

- 1) 湯本求真. 皇漢医学. 燎原書店, 東京 1983. 33-55.
- 2) 吉野鉄大, 堀場裕子, 渡辺賢治. 続発性無月経に烏薬順気散が有効だった1例. 日東医誌 2013; 64: 227-230.
- 3) 木村容子. 月経痛, 月経周期異常に対する気剤による治療の試み. 日東医誌 2006; 57: 453-458.
- 4) 安達知子. 月経困難症. 思春期医学新女性医学体系18 武谷雄二編集, 中山書店, 東京 2000. 265-271.
- 5) 張仲景. 明趙開美本傷寒論. 卷三. 燎原書店, 東京 1988.
- 6) 大塚敬節, 矢数道明, 清水藤太郎. 漢方診療医典. 南山堂, 2007. 370-371.
- 7) 秋葉哲生. 活用自在の処方解説. ライフ・サイエンス, 2009. 26-27.
- 8) 後山尚久. 機能性月経痛への対処法. 臨床婦人科産科 2005; 59: 1005-1008.
- 9) 働く女性の身体と心を考える委員会 (座長 坂元正一). 月経痛働く女性の健康に関する実態調査結果働く女性の身体と心を考える委員会報告書. 財団法人女性労働協会, 2004. 21-22.
- 10) 大橋宏. 各種勤労婦人の月経随伴症状に関する研究. 北関東医学, 1965. 61-92.
- 11) 松本清一. 月経に伴う愁訴. 思春期婦人科外来—診療・ケアの基本から実際まで—. 文光堂, 東京 1995. 83-96.
- 12) 思春期のケア. 研修ノート, 社団法人 日本産婦人科医会, 1998. 45-46.
- 13) 女性の雇用と健康政策研究会著. 政策提言シリーズ vol 2. 日本医療政策機構, 2005. 11-15. www.hgpi.org/handout/2010-04-16_33_688176.pdf
- 14) 菅沼栄. いかに弁証論治するか. 東洋学術出版社, 東京 1996. 213.
- 15) 楊士瀛 編撰 (朱崇正 附遺). 新刊仁斎直指附遺方論. 卷之1-26 早稲田大学図書館 古典籍総合データベース www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/ya09/ya09_00183/